

一般社団法人 CEPA ジャパン

定時社員総会

# 議案書

日時:2016年6月8日(水曜日)18時00分~19時00分

会場:ちよだプラットフォームスクエア・会議室

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-21

- ・JR 神田駅西口から出世不動通り徒歩 12分 <http://yamori.jp/access/>
- ・地下鉄 ■竹橋駅(東西線)3b KKR ホテル東京玄関前出口より徒歩 2分
- 神保町駅(三田線・新宿線・半蔵門線)A9 出口より徒歩 7分
- 大手町駅(三田線・千代田線・半蔵門線・丸の内線)C2b 出口より徒歩 8分
- 小川町駅(新宿線・千代田線)B7 出口より徒歩 8分

○開会 代表理事あいさつ

第1部 総会

1. 総会開会の辞
  2. 定足数の確認
  3. 議長選出
  4. 議案審議
- 第1号議案 2015年度 事業・活動報告
- 第2号議案 2015年度 収支決算報告
- 第3号議案 2016年度 事業・活動計画
- 第4号議案 2016年度 予算計画
5. 議長退任

○閉会

第2部 交流会 19時00分~21時00分

会場:「fune ふね」(※総会の会場と同じ建物 1F)

ちよだプラットフォームスクエア【1F】 TEL 03-5259-8051

会費:4,000円

## 第1号議案 2015 年度 事業・活動報告

### 1. 事業展開方針

第 5 期は、次のように位置付けて活動を展開した。

#### 【事業展開方針】 ■第2ステージは上昇へ

2010 年の CEPA ジャパン創設から第 6 期を迎える本年度は、法人としての基礎固めであった当初 5 年間の「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」へいよいよ本格稼働を果たしていく。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきものぐらし」のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきものぐらし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

#### <事業内容>

2015 年度は CEPA ジャパンの「第2ステージ」の幕あけとなる一年として、以下の事業を展開した。

#### <1> CEPA ジャパンの組織基盤強化

##### 1. 事務局体制の強化

当法人への期待に応えるために、「地球と未来の環境基金」のご協力で設置した事務局は、2 年目を迎え、生物多様性アクション大賞の事務局としても機能強化に努めた。また、外部の公認会計士のご指導により財務基盤強化がされ、年間での指導体制をとっていただいた。

##### 2. 支援者組織化

会員数は、個人・法人あわせて、26 名であり、引き続き、会員拡大に努力する。

2016 年 3 月 31 日現在の会員数は以下のとおりである。

運営会員 18 名 賛同会員(個人) 7 名 賛同会員(団体) 1 名 賛助会員 0 名

##### 3. 広報

当法人の基幹事業として引き続き「5 ACTIONS」に関するツールの開発を行った。

#### 3-1. CEPA ジャパンのオフィシャルサイト

昨年リニューアルしたサイトで、さらに国内の生物多様性の事例紹介などの情報発信に努めた。特にトップページに数多くの「生物多様性・的な」サイトを紹介して、関心のある方にとってのポータルサイト化を目指した。

<http://cepajapan.org>

#### 3-2. CEPA ツールキットの公開

同じくサイトで 2007 年刊行の生物多様性を主流化するための「CEPA (コミュニケーション・教育・普及啓発) ツールキット」日本語版を公開し、普及啓発に努めた。

<http://cepajapan.org/projects/toolkit/>

#### 3-3. 生物多様性アクション大賞の運営

生物多様性の先進事例の収集を図るため、応募についての情報発信を行い、自然保護関係者や CSR 担当者・一般来場者が多く集まるエコプロダクト展で授章式を開催。大賞団体の講演及び受賞団体の事例紹介に努めた。また地域でのパワーアップを図るためのワークショップ開催の参加を呼びかけた。

<http://5actions.jp/award/>

#### 3-4. 「いきものぐらし」のサイト

生物多様性に貢献している企業事例などを紹介して、一般消費者が選択可能な情報を整備。一昨年度開設以来、CEPAに関するホームページを充実するとともに、英文対応のサイトも充実を図り、CEPAに関する情報発信に努めた。

<http://5actions.jp> 「英文対応のサイト」 <http://5actions.jp/en/>

#### 3-5. 年次報告書の発行

2015 年度のハイライトを網羅して、CEPA ジャパンとはどのような団体で、何を目指して、どんな活動をしているのかを紹介できる冊子を作製した。

#### 3-6. 国内の事例収集

CEPA ジャパンの活動について、国内の事例収集を中心に行い、情報発信に努めた。

<https://sites.google.com/site/cepajapan2012/home/information>

#### 3-8. facebook ページ

SNS での情報発信に努めた。

和文 <http://www.facebook.com/cepajapan.org> 英文 <http://www.facebook.com/CepaJapan>

### 4. 総会・理事会の開催

#### 【総会】

2015 年度の通常総会は 2015 年 5 月 22 日(水)にちよだプラットフォームスクエア会議室で開催した。2014 年度事業報告と決算を承認、2015 年度計画と予算、及び新任期となる理事について決議した。なお、総会終了後は、会場を 1F の fune ふねに移して、第2部として生物多様性保全に努力している内外の団体に呼び掛け「生物多様性の日」交流会パーティとして開催した。一昨年度からの同様の形式での開催であったが、「いきものぐらし」を考える日として、多数の参加者から好評を得た。

#### 【理事会】

また、2015 年度の理事会は以下の 3 回を開催した。(1回は年度前に実施した)

##### ●2015 年 3 月 5 日理事会(富士ゼロックス会議室)

総会の審議に付与するべき事項について審議、総会議案として上程した。

- ・2014 年事業報告・決算、2015 年事業計画・予算
- ・合わせて今年度の事業計画の運営体制に関することを審議した

##### ●2015 年 7 月 6 日理事会(富士ゼロックス会議室)

総会を受けて、今年度の事業計画の運営体制に関することを協議した

##### ●2015 年 9 月 16 日理事会(スペースポート会議室)

事業運営に関する事項を協議した。

- ・生物多様性アクション大賞の運営体制について協議した。
- ・上半期の評価と下半期の事業計画、予算推移について確認した。

●2016年1月6日理事会(スペーススポーツ会議室)

次年度に向けての意見交換を行った。

- ・次年度に向けての地球環境基金の申請と次年度の事業運営にあたっての目玉づくり
- ・生物多様性アクション大賞の動機を分析についての中間報告

5.その他

財政基盤強化をはかり、特に自主財源の獲得に注力した。特に生物多様性アクション大賞は年間を通じての取り組みになるため、企業との連携を深めた。また組織基盤安定のため、地球環境基金からの助成を受けて、「5ACTION」のツールをつかった普及啓発を行った。

<2> 普及啓発事業

1.生物多様性アクション大賞の開催

1-1.応募状況と受賞団体

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)が推進している『5つのアクション(たべよう・ふれよう・つたえよう・まもろう・えらぼう)』に貢献する団体・個人の取組みを全国から募集。優れた活動を表彰、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化を目指す。活動規模の大小を問わず、あらゆるセクターに「生物多様性の自分ごと化」を促し、「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発(CEPA)活動の一つとして、またCOP10で採択された「愛知目標」達成の一助として実施する。今年度より国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)の主催事業となったが、CEPA ジャパンが主導して、引き続き事務局の機能を担った。応募総数135。特に地方でのメディア掲載が顕著。

[大賞] たべよう部門優秀賞

「竹を食べて放置竹林をなくす」特定非営利活動法人加茂女(京都府木津川市)

[優秀賞]

- ふれよう部門「いきもの広場で遊ぼう」公益財団法人東京動物園協会井の頭自然文化園(東京都武蔵野市)
- つたえよう部門「人と自然のふれあい調査」一般社団法人てるはの森の会(宮崎県宮崎市)
- まもろう部門「中小企業連携で進める生物多様性保全の取り組み」湖南 企業いきもの応援団(滋賀県草津市)
- えらぼう部門「BIO NET INITIATIVE ~いのちをつなぐ街づくり~」三菱地所レジデンス株式会社(東京都千代田区)

[特別賞]

- 復興支援賞「いちえふ沖海洋調査」いわき海洋調べ隊・うみラボ(福島県いわき市)
- グリーンウェイブ賞「漁民の森づくり活動」特定非営利活動法人天明水の会(熊本県熊本市)
- セブン-イレブン記念財団賞「南部太ネギで地域を元気に」青森県立名久井農業高等学校 伝統野菜班(青森県三戸郡南部町)

[審査員賞]

「植物と人々の博物館」特定非営利活動法人自然文化誌研究会(東京都日野市)  
「高めよう！野生動物を守る地域のパワー」やまがたヤマネ研究会(山形県山形市)  
「田んぼの生きもの調査」  
全国農業協同組合連合会 広報部(東京都千代田区)  
「地域の自生芝を活用する ～多様性のある草原を創る～」京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発」班(京都府ほか)  
「持続可能な用紙調達」富士ゼロックス株式会社(東京都港区)  
「魚食普及による地方創生を図るプロジェクト」気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(宮城県気仙沼市)  
「森のいのち」を詩と映像で残す事業」特定非営利活動法人ういむい未来の里 CS0(青森県青森市)

開催に当たっては、ニュースリリースを行うとともに、告知、チラシ配布、5Action サイトでの告知などを行った。また生物多様性アクション大賞 2015 アンバサダーに「さかなクン」に就任していただいた。

#### 1-2.授賞式

【日時】2015年12月11日(金)14:00-17:00 【場所】東京ビックサイト会議棟 7F703 会議室

東京ビックサイトで開催された日本最大級の環境展示会エコプロダクト 2015 の期間中に開催した。まず主催者を代表して国連生物多様性の 10 年日本委員会事務局を担う、環境省生物多様性施策推進室の堀上勝室長の開会の挨拶に続いてアワード主旨説明、表彰状授与、受賞団体からのプレゼンテーション「3 ピース・トーク」ののち、大賞の結果発表を行った。表彰の後、協賛企業からの応援スピーチを受けた。また、受賞者と協賛企業からの代表で懇親会を開催した(会議棟 8F レストランアルバルト)

<http://5actions.jp/award/ceremony.html>

#### 1-3.エコプロダクト 2015 での発表

授賞式の翌日、5 部門優秀賞受賞者は、エコプロダクト 2015 会場のステージで、生物多様性アクション大賞アンバサダーのさかなクンと共演。大賞を受賞した特定非営利活動法人加茂女の曾我千代子さんには活動内容を発表。さかなクンによる、お魚クイズを交えたトークも楽しく、会場は大入り満員の大盛況で、生物多様性をぐっと身近に感じられるステージになった。

【日時】2015年12月12日(土)13:30-14:15 【場所】東京ビックサイト 第5ホール「イベントステージ」

【テーマ】今年は愛知ターゲットの折り返し点！達成は大丈夫か日本！もっと身近に生物多様性を、さかなクンと一緒に考えよう！

#### 1-4.パワーアップ地域ワークショップの開催

生物多様性アクション大賞の周知啓蒙を通じて CEPA ジャパンの目的達成を行うため、地域で活動している市民、企業、学校・クラスなどの生物多様性を豊かにする取り組みをしている人や個人に対して「生物多様性アクション大賞」にチャレンジする力をつけていただくためのワークショップを実施。

○めざせアクション大賞！パワーアップセミナー in 神山

【日時】2016年1月31日(金) 【場所】徳島県・神山町移住交流支援センター 参加者 15名



○めざせアクション大賞！パワーアップセミナーin 垂井

【日時】2016年2月9日(火) 【場所】岐阜県垂井町フェアトレードショップみずのわ 参加者 8名

○めざせアクション大賞！パワーアップセミナーin 垂井

【日時】2016年2月28日(日) 【場所】北海道札幌市道民活動振興センター 参加者 8名

## 2. 普及啓発

2-1. 日本最大の環境展示会 エコプロダクツ 2015「生物多様性ナレッジスクエア」を主導

三回目の「生物多様性ナレッジスクエア」として、関係 13 団体と共同展示を。

—— 「カワイイ、ダカラ…。もっと身近に」 エコプロダクツ 2015——

12月9日から三日間、東京ビッグサイトで開催された、エコプロダクツ 2015 に、CEPA ジャパンでは、他の生物多様性関係 13 団体とともに、「生物多様性ナレッジスクエア」として、共同出展。「都市生活者が豊かな生物多様性を実現するために、できることのヒントの提供」を目的に、「カワイイ、ダカラ…。もっと身近に、生物多様性。」を、さらにパワーアップして展開。

【日時】2015年12月12日(木)～13日(土) 【場所】東京ビッグサイト東展示場 4ホール

[http://cepajapan.org/member\\_blog/1931/](http://cepajapan.org/member_blog/1931/)

## 2-2. 自然観察会の開催

自然観察指導員東京連絡会の協力を得て、自然観察会を開催できた。合計約 230 人の方に都会の中での生物多様性を感じていただくことができた。

●2015年5月17日(日)国連生物多様性の日記念「みどりの自然観察会」参加者 130名 【場所】日比谷公園

[http://cepajapan.org/member\\_blog/1875/](http://cepajapan.org/member_blog/1875/)

●2015年8月5日(水)「セミの羽化観察会」参加者 70名 【場所】日比谷公園

[http://cepajapan.org/member\\_blog/1898/](http://cepajapan.org/member_blog/1898/)

●2015年12月11日(木)～13日(土)「ネイチャーガイドと歩こう!身近な自然発見」各日3回計9回実施、参加者 32名 【場所】水の広場公園

[http://cepajapan.org/member\\_blog/1921/](http://cepajapan.org/member_blog/1921/)

## 3. その他

3-1. CEPA ジャパンとして、以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

【共催】

自然観察指導員東京連絡会(NACOT)「みどりの自然観察会」

【後援】

【協力】

3-2.CEPA ジャパンとして、以下の会合に参画・提言を行った。

■[国際会議参加]

- ・モントリオール(カナダ)で11月2日～7日に開催された CBD SBSTTA19/8JWG に宮本理事が参加し、NGO 会合・本会議・作業部会・サイドイベントに参加し、情報収集と他国 NGO との連携を図った。
- ・パタヤ(タイ)で12月1日～4日に開催された国際サンゴ礁イニシアティブ第30回総会(ICRI30)に宮本理事が参加し、総会・エクスカーションにおいて情報収集と参加者(政府・国連組織・IGO・NGO)との連携を図った。
- ・バンコク(タイ)で2月15日～19日に開催されたアセアン生物多様性カンファレンス 2016(ACB216)に宮本理事が参加し、本会議・分科会において情報収集と参加者(政府・ビジネス・NGO)と連携を図った。

■[国内事業]

- ・グリーン復興について南三陸(宮城)におけるプロジェクトに4,5,11,2月に参画し、海と田んぼからのグリーン復興会議にて共有した。南三陸(宮城)の「山さ、ごさいん」プロジェクトに川廷代表が4月・5月・11月に参画し、「海さ、ごさいん」プロジェクトにおいて川廷代表・宮本理事が2月6日・27日の実行委員会を運営し、2月7日・28日に関係者との会合を持ち連携を深めた。また、「海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト」定例会合の運営に事務局として参画した。
- ・NGOとのネットワーク強化を図った。高野山(和歌山)で7月11日～12日に開催された森川里海シンポジウムに宮本理事が参加し、参加団体との連携を図った。
- 名護(沖縄)で1月23日に開催された農業と生物多様性シンポジウムに宮本理事が参画し、運営を支援するとともに参加団体との連携を図った。
- ・里山・里海的良好事例収集を行った。8月1日～2日に遠野(岩手)において馬搬および自然農による流域管理、9月20日～21日に対馬(長崎)において耕作放棄地再生およびツシマヤマネコ保全を促進する農業の取り組み、3月5日にサンゴ養殖と植え付けによるサンゴ礁再生の取り組み、について宮本理事がヒアリングした。
- ・サンゴ礁保全・提言に向け、日本サンゴ礁学会のサンゴ礁生態系保全行動計画提言書作成タスクフォースに参画した。渡嘉敷島(沖縄)で11月14日～15日に、石垣島(沖縄)で1月16日～17日に、サンゴ礁の健康診断を宮本理事が行った。石垣島(沖縄)で3月26日～27日にサンゴ礁保全の取り組みヒアリングを宮本理事らが行った。
- ・B センスフォーラムと協働した。「5つのアクション」を実感できる取り組みであるB センスさんぽの下見を小樽(北海道)で7月25日～26日に、広島&呉(広島)で12月23日～24日に、宮本理事らが見学を行った。博多(福岡)で9月22日に宮本理事がトライアルを行った。

■参画

- ・公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)に団体会員として加盟
- ・SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークに参加
- ・生物多様性民間参加パートナーシップへ参加申請、川廷代表はアドバイザーボード
- ・国連生物多様性の10年日本委員会の委員、運営部会のメンバーとして、「MY 行動宣言5つのアクション」を生物多様性の主流化に向けたツールとして制作した
- ・低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同
- ・生物多様性ちば企業ネットワークに支援メンバーとして参画

第2号議案 2015年度収支決算案

正味財産増減計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

一般会計	(単位：円)		
科目	当年	前年	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
① 受取会費	[ 296,000 ]	[ 216,000 ]	[ 80,000 ]
受取会費	296,000	216,000	80,000
② 事業収益	[ 8,752,878 ]	[ 6,467,123 ]	[ 2,285,755 ]
受託事業収益	8,752,878	6,467,123	2,285,755
③ 受取助成金	[ 4,033,000 ]	[ 8,430,000 ]	[ Δ 4,397,000 ]
受取助成金	4,033,000	8,430,000	Δ 4,397,000
④ 受取寄付金	[ 273,000 ]	[ 30,000 ]	[ 243,000 ]
受取寄付金	273,000	30,000	243,000
⑤ 雑収益	[ 75,727 ]	[ 104,608 ]	[ Δ 28,881 ]
受取利息	127	608	Δ 481
その他の利益	75,600	104,000	Δ 28,400
<b>経常収益計</b>	<b>13,430,605</b>	<b>15,247,731</b>	<b>Δ 1,817,126</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
① 事業費	[ 9,350,355 ]	[ 14,818,547 ]	[ Δ 5,468,192 ]
外注費	1,729,640	8,164,390	Δ 6,434,750
荷造運賃	10,770	156,959	Δ 146,189
活動支援費	700,000	0	700,000
広告宣伝費	2,981,980	3,576,503	Δ 594,523
会議費	305,500	13,000	292,500
旅費交通費	2,550,158	2,211,390	338,768
通信費	105,840	40,610	65,230
消耗品費	63,072	24,761	38,311
新聞図書費	100,225	0	100,225
諸会費	15,000	15,000	0
支払手数料	23,706	22,140	1,566
支払報酬料	540,000	0	540,000
賃借料	220,414	588,934	Δ 368,520
保険料	4,050	4,860	Δ 810
② 管理費	[ 2,091,414 ]	[ 854,140 ]	[ 1,237,274 ]
外注費	1,782,000	511,590	1,270,410
荷造運賃	22,941	8,792	14,149
広告宣伝費	0	303,578	Δ 303,578
会議費	5,157	0	5,157
旅費交通費	9,406	3,967	5,439
通信費	50,439	13,020	37,419



事務用品費	0	3,251	△ 3,251
消耗品費	61,032	0	61,032
支払手数料	150,432	3,672	146,760
賃借料	0	4,600	△ 4,600
租税公課	10,007	1,670	8,337
経常費用計	11,441,769	15,672,687	△ 4,230,918
当期経常増減額	1,988,836	△ 424,956	2,413,792
<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	1,988,836	△ 424,956	2,413,792
法人税、住民税及び事業税	141,914	70,000	71,914
当期一般正味財産増減額	1,846,922	△ 494,956	2,341,878
一般正味財産期首残高	△ 2,039,208	△ 1,544,252	△ 494,956
一般正味財産期末残高	△ 192,286	△ 2,039,208	1,846,922
<b>II 正味財産期末残高</b>	△ 192,286	△ 2,039,208	1,846,922

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 消費税等の会計処理

税込方式

## 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年	前 年	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現 金 預 金	121,104	412,130	△ 291,026
未 収 入 金	1,000,000	0	1,000,000
仮 払 金	31,400	0	31,400
仮 払 税 金	0	39	△ 39
<b>流 動 資 産 合 計</b>	<b>1,152,504</b>	<b>412,169</b>	<b>740,335</b>
<b>2 固定資産</b>			
<b>固 定 資 産 合 計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>1,152,504</b>	<b>412,169</b>	<b>740,335</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短 期 借 入 金	1,202,890	2,381,390	△ 1,178,500
未 払 法 人 税 等	141,900	69,987	71,913
<b>流 動 負 債 合 計</b>	<b>1,344,790</b>	<b>2,451,377</b>	<b>△ 1,106,587</b>
<b>2 固定負債</b>			
<b>固 定 負 債 合 計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>負 債 合 計</b>	<b>1,344,790</b>	<b>2,451,377</b>	<b>△ 1,106,587</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1 一般正味財産</b>	<b>△ 192,286</b>	<b>△ 2,039,208</b>	<b>1,846,922</b>
<b>2 指定正味財産</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>正味財産合計</b>	<b>△ 192,286</b>	<b>△ 2,039,208</b>	<b>1,846,922</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>1,152,504</b>	<b>412,169</b>	<b>740,335</b>

## 財 産 目 録

平成28年3月31日現在

(単位：円)

内 訳	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金	[ 0 ]		
普通預金	[ 121,104 ]		
三菱東京UFJ銀行横浜支店	121,104		
未収入金	[ 1,000,000 ]		
受託事業未収入金	1,000,000		
仮払金	[ 31,400 ]		
事業費仮払	31,400		
<b>流動資産合計</b>		1,152,504	
<b>2 固定資産</b>			
	[ 0 ]		
<b>固定資産合計</b>		0	
<b>資産合計</b>			1,152,504
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短期借入金	[ 1,202,890 ]		
運転資金借入	1,202,890		
未払法人税等	[ 141,900 ]		
<b>流動負債合計</b>		1,344,790	
<b>2 固定負債</b>			
	[ 0 ]		
<b>固定負債合計</b>		0	
<b>負債合計</b>			1,344,790
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>正味財産</b>			△ 192,286

## 事業別 正味財産増減計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

一般会計

(単位：円)

科 目	法人合計	公益事業	収益事業
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
① 受取会費	[ 296,000 ]	[ 296,000 ]	[ 0 ]
受 取 会 費	296,000	296,000	0
② 事業収益	[ 8,752,878 ]	[ 0 ]	[ 8,752,878 ]
受 託 事 業 収 益	8,752,878	0	8,752,878
③ 受取助成金	[ 4,033,000 ]	[ 4,033,000 ]	[ 0 ]
受 取 助 成 金	4,033,000	4,033,000	0
④ 受取寄付金	[ 273,000 ]	[ 273,000 ]	[ 0 ]
受 取 寄 付 金	273,000	273,000	0
⑤ 雑収益	[ 75,727 ]	[ 75,643 ]	[ 84 ]
受 取 利 息	127	43	84
そ の 他 収 益	75,600	75,600	0
<b>経 常 収 益 計</b>	<b>13,430,605</b>	<b>4,677,643</b>	<b>8,752,962</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
① 事業費	[ 9,350,355 ]	[ 3,641,122 ]	[ 5,709,233 ]
外 注 費	1,729,640	588,078	1,141,562
荷 造 運 賃	10,770	3,662	7,108
活 動 支 援 金	700,000	700,000	0
広 告 宣 伝 費	2,981,980	1,013,873	1,968,107
会 議 費	305,500	103,870	201,630
旅 費 交 通 費	2,550,158	867,054	1,683,104
通 信 費	105,840	35,986	69,854
消 耗 品 費	63,072	21,444	41,628
新 聞 図 書 費	100,225	34,077	66,148
諸 会 費	15,000	5,100	9,900
支 払 手 数 料	23,706	8,060	15,646
支 払 報 酬 料	540,000	183,600	356,400
賃 借 料	220,414	74,941	145,473
保 険 料	4,050	1,377	2,673
② 管理費	[ 2,091,414 ]	[ 711,085 ]	[ 1,380,329 ]
外 注 費	1,782,000	605,880	1,176,120
荷 造 運 賃	22,941	7,800	15,141
広 告 宣 伝 費	0	0	0
会 議 費	5,157	1,753	3,404
旅 費 交 通 費	9,406	3,198	6,208
通 信 費	50,439	17,149	33,290

事務用品費	0	0	0
消耗品費	61,032	20,751	40,281
支払手数料	150,432	51,147	99,285
賃借料	0	0	0
租税公課	10,007	3,407	6,600
経常費用計	11,441,769	4,352,207	7,089,562
当期経常増減額	1,988,836	325,436	1,663,400
<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	1,988,836	325,436	1,663,400
法人税、住民税及び事業税	141,914	0	141,914
当期一般正味財産増減額	1,846,922	325,436	1,521,486
一般正味財産期首残高	△ 2,039,208		
一般正味財産期末残高	△ 192,286		
<b>Ⅱ 正味財産期末残高</b>	△ 192,286		

(注) 事業費のうち各事業に共通して発生するもの及び管理費は、受取助成金と受託事業収益の割合(公益34%、収益66%)により各事業に配分した。



## 監査報告書

一般社団法人 CEPA ジャパン  
代表理事 川廷 昌弘 殿

私は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

### 1 監査の方法及びその内容

監事は、理事等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

### 2 監査意見

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成 28 年 5 月 22 日

一般社団法人 CEPA ジャパン

監事 浅見 哲



監事 星野 智子



## 第3号議案 第7期(2016年度)事業・活動計画

### 【事業展開方針】 ■第2ステージは上昇へ

2010年のCEPAジャパン創設から第7期を迎える本年度は、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」へいよいよ本格稼働を果たしていく。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきものぐらし」のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきものぐらし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

### 【今年度の具体的な事業】

#### 1. 生物多様性アクション大賞 2016

7月1日に募集開始。8月31日に締切。表彰式典を11月19日予定、また大賞のプレゼンをエコプロ展で開催を検討。環境省と連携して、国家規模のアワードとして確立させていきます。

◆主な事業内容:選考事務局運営、ウェブサイトによる情報発信、映像制作、贈呈式記念イベント、及びパワーアップ地域ワークショップ開催など

#### 2. CEPA プログラム「楽しく学ぼう生物多様性」

2020年までの学習プログラム実施の検討。■予算の確保、■開催地の検討、■対応理事の検討、■環境省と10年委員会を含む外部機関との効果・効率的な連携を図る。

◆主な事業内容:公開したCEPAツールキットの活用 COP12のCEPA決議では、ツールキットの更新が盛り込まれているため、新たな動きにも対応、まずは拡散し日本のCEPAフォーカルポイントとして確立。

#### 3. 体感型の普及啓発イベント

「いきものぐらし」を共有し実感できるようなイベント、5つのアクションの事例収集など、様々な形態を検討。都市生活の中で、もっと身近に、生物多様性を感じる事業など展開。

◆主な事業内容:展示型イベント(エコプロダクツ展・生物多様性スクエアの充実&継続、アクション大賞の連携)体験型イベント(自然観察会、B センスフォーラムなどと連携)、ネットワーク自然観察会など

#### 4. 広報

継続して懸案であった「CEPA ジャパン」オフィシャルサイトのリニューアル、さらに情報発信に努め、「いきものぐらし」サイトでの全国各地から「5つのアクション」に基づいた事例収集を行う。

◆主な事業内容ウェブサイト運営

リニューアルしたサイトの拡散、トップページのウェブショウケースと、これに連動した活動の検討。

#### 5. 組織運営

当法人への期待に応えるために、年々充実した財務の更なる安定化を図り、継続的な事務局体制を確立させる。

◆主な事業内容:事務局業務の拡充、事業収入の拡大など

#### 6. 他団体との連携・協働

日本におけるCEPA活動の中核を担う法人として、愛知ターゲット達成に向けて、全てのセクターとの連携を図り、これまでにない広報、教育、普及啓発の施策を創発する。

◆主な事業内容:MY 行動宣言5つのアクション事務局(宣言を2020年までに100万集める方針)、IUCN-J(生物多様性の主流化に向けたCEPAメインプレイヤーとしてのポジション)、CEPA-IAC(条約事務局から推薦があったCEPAプログラムへの参画)、UNDB 企画提案委員等

第4号議案 2016 年度予算案

事業所名：CEPA ジャパン

期間：平成 27 年 04 月 01 日,平成 28 年 03 月 31 日

勘定科目	6 期予算	7 期予算	増減率
[経常収益]			
受取会費	300,000	300,000	100%
受託事業収益	6,100,000	8,000,000	131%
受取助成金	8,000,000	4,000,000	50%
受取寄付金	300,000	200,000	67%
雑収益	0	0	
経常収益合計	14,700,000	12,500,000	85%
[経常費用]			
[事業費]			
外注費（事）	2,000,000	1,800,000	90%
荷造運賃（事）	10,000	10,000	100%
活動支援金（事）	1,000,000	700,000	70%
広告宣伝費（事）	2,000,000	3,000,000	150%
会議費（事）	50,000	300,000	600%
旅費交通費（事）	1,000,000	2,500,000	250%
通信費（事）	90,000	90,000	100%
消耗品費（事）	100,000	70,000	70%
新聞図書費（事）	300,000	100,000	33%
諸会費（事）	30,000	20,000	67%
支払手数料（事）	15,000	30,000	200%
支払報酬料（事）	1,000,000	600,000	60%
賃借料（事）	100,000	300,000	300%
保険料（事）	20,000	10,000	50%
事業費計	7,715,000	9,530,000	124%
[管理費]			
外注費（管）	4,000,000	2,000,000	50%
荷造運賃（管）	10,000	30,000	300%
広告宣伝費（管）	1,000,000	0	0%
会議費（管）	60,000	60,000	100%
旅費交通費（管）	1,000,000	30,000	3%
通信費（管）	40,000	40,000	100%

消耗品費（管）	70,000	70,000	100%
事務用品費（管）			#DIV/0!
支払手数料（管）	10,000	150,000	1500%
賃借料（管）			#DIV/0!
租税公課（管）	60,000	60,000	100%
雑費	80,000	80,000	100%
管理費計	6,330,000	2,520,000	40%
経常費用合計	14,045,000	12,050,000	86%
当期経常増減額	655,000	450,000	69%

[参考資料]

■シンボル

A

もっと身近に、生物多様性。

B

もっと身近に、  
生物多様性。



C



[CEPA ジャパンのミッション]

- 1、愛知目標達成のため、生物多様性の普及啓発を推進し  
全国の取り組みを紹介する受け皿となる
- 2、地域の個性を守るため、各自治体や企業、市民と  
生物多様性の実施計画を推進する
- 3、持続可能な生産と消費と、Green Economy の理解促進を図り  
新しい取り組みを創出する

[CEPA ジャパンのビジョン]

生物多様性が豊かであり、災害大国でもある国土に生きる市民として、COP10 で採択された「愛知ターゲット」達成のため、日本の市民社会が提案して国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」を推進します。

そのために、日本の伝承文化や CEPA プログラムを、生物多様性を理解し自然と共生する心豊かな暮らしを理解できるツールとして活用します。

そして、持続可能な社会の実現を加速させる誰もが学びたくなる「アース・コミュニケーション・センター」を、都市の中心部に世界に通用するエデュケーションセンターとして建設することも目指します。

さらに、先住民族グループ(IIFB)ともグローバルな活動をしながら、2050 年には地球上に存在する社会すべてが自然資源のバランスに配慮した幸せな社会となっていることを目指します。